

DIANE VON FURSTENBERG

生ける伝説、ラップドレスの女王

35年前に誕生した、究極に見栄えがよく機能的なジャージー素材のラップドレスは、女性の自由の象徴として、アメリカ家庭のほとんどのクローゼットに存在した。その仕掛人である、ダイアン フォン ファステンバーグは、いわゆるセレブリティの元祖。再び脚光を浴びたその理由とは……。

撮影/奥村康人(人物)、松本正志(静物) スタイリスト/橋本早苗 ヘア・メイク/田中 博 取材・構成/柳武麻実 デザイン/Fab 撮影協力/PROPS NOW



復刻も魅力的

’70年代に大人気だったレオパード柄の復刻。ラップドレスが当時革新的だったのは、ボタンやファスナーがなく、ジャージー素材で、ボディにぴったりフィットし、動きにしなやかに対応したから。シワになりにくく、旅のウエアとしても貴重。青山店の1周年記念限定ドレスとして登場。ウィンテージラインのラップドレス「JULIAN」¥66,150 (ダイアンフォンファステンバーグ/ダイアンフォンファステンバーグ 青山店)

中野香織

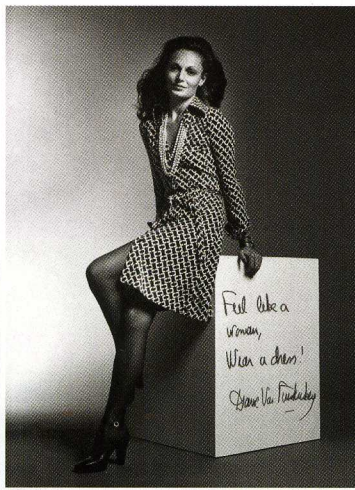
服飾史家、コラムニスト。ケンブリッジ大学客員研究員を経て、執筆活動に。著書に「着るものがない!」 「モードの方程式」などが。

公私をひっくりかえした「グラマラスな女性の人生」そのものがブランドの価値を高めているという点において、ココ・シャネルとついでに比べたくなる。
60歳にして「まだまだ現役、これからもハンドルの握るわ」と宣言し、アメリカファッションデザイナー評議会の会長も務めるダイアンフォンファステンバーグ(DVF)のキャリア物語は、「王子様」との結婚から始まる(ふつうのおとぎ話ならここで終わるんだけど)。
貴族の称号をもつ夫とともに元祖ソーシャライトとしてNYで華やかな交友を繰り広げ、’72年にジャーニー素材のラップドレスを発表して500万着を売り上げた。’76年には「ニューズウィーク」誌の表紙を飾る。巨大なファッション帝国を築くも離婚、俳優とも浮名を流した後、メディア王バリー・デイラーと再婚。10年ほど業界から距離をおいてのちテレビショッピングを成功させて再びトップに立ち、’97年にはラップドレスを復活させた。働く女性がユニセックスな服を着てい

た’70年代、女性はビジネスマインドと女性らしさを両立できるという信念のもと、ダイアンはラップドレスを考案した。実用的で、体型を問わず女性を魅力的に見せるこのドレスは時代の要求にぴったり合致。ジップを使わないのも、積極的な性的振舞いが女性に許され始めた当時ならではの配慮だったようだ。「音を立てずに服を脱げるようにね」とジョーク交じりにダイアンは語る(Betina Zilkha「Ultimate Style」)。
21世紀の復活ラップドレスもまた、女性が各自の「らしさ」を楽しむようになった時流にみごとに沿う。パールとともにコンサバに着てよし、ブーツを合わせてパッドガールを気取るもよし。
「自信とは今の自分の立ち位置を受け容れることから生まれる」とダイアンは英「タイムズ」紙で語る。本来の美貌に経験と自信が加わり圧倒的な貫禄で輝くダイアンその人も、ドレスに劣らぬタイムレスな魅力の持ち主として語られ続けるだろう。

まさに魅力的女性

中野香織



’72年、ブランド初の広告に、ダイアン自らモデルを務める。白い箱が殺風景だったため、その場で書いたドレスを着て、女性であることを感じて……。が、今でもブランドコンセプトとして生き続けています。

裕福なビジネスマンの娘としてダイアンは、’47年にベルギーのブリュッセルで誕生。マドリッドやジュネーブの大学でビジネスを学び、当時よりヨーロッパの社交界に溶け込む。’65年に最初の夫、ドイトの名門貴族のイーゴン・フォン・ファステンバーグ公爵に出会い、’69年に結婚。イーゴンの働いていたニューヨークに渡り、洋服作りの仕事をスタート。NYでもモード界やピカソ、ダリ、アンデイ・ウオーホルムらと交流。’72年に発表したラップドレスが、当時の

VOGUE編集長の目に留まり、ファッション業界に慧星のごとく登場。ビジネスを拡大成功させる。離婚後、パリで5年間暮らしNYに戻る。事業を立て直すため、’92年にテレビショッピングで記録的なセールスを達成し、同時に若い女性たちにも注目され、再びファッション界のトップに躍り出る。’99年にNYコレクションに参加。2001年に長年の友人であったバリー・デイラーと再婚。’03年からはワールドワイドにショップを展開。

進化するブランドSTORY

(写真右) ’77年のコレクションでランウェイを飾ったレオパード柄のドレス。ブランド全盛期で、写真上のトルソーのドレスも、このレオパード柄をリバイバルさせたもの。(写真左) マドンナも愛用。2004年、テルアビブにてカバラのカンファレンスに出席した際の写真。

